

安城市市民参加条例と協働に関する指針を考える市民会議⑪ 2010/9/6

全体トーク「素案のたたき台～よりよくするために③」まとめ

全体トークの
前に池さんより

知人の京都市民13人に京都市市民参加条例を知っているか尋ねたが誰も知らなかった。市民の生活にあまり関わりがないのでは。

論点① 「1. 条例の目的」に、削除した前文に入れたかった「まちの未来像の思い」を短く入れたらどうか？

前回のひとことアンケートにて意見を記入してもらったが、条例の目的に入れるべき「まちの未来像」について合意形成できるほど明確なイメージも得られなかったので、市民会議の結論としては、「目的を簡潔に記載する」ということでよい。

赤(異議なし)17: 青(異議あり)0

★市民会議の結論としては、「目的を簡潔に記載する」

論点⑤ 「19. その他」で「市民ボランティア」(ボランティアコーディネーターも含む)について記載するかどうか？

赤(記載する)6: 青(記載しない)12

○記載すべきかどうか迷ったが、記載した方が分かりやすい。

○市全域でボランティアに活路を見出した。ボランティア活動の活性化の為に必要。

○ボランティア活動をしようという人が増えて欲しい。その為に相談役としてのコーディネーターがいるとよい。

○環境大学院等のPRをボランティアで幅広くできればと思う。

○色々な市の施策があるが市民に伝わっていない。市民力の育成の為に記載したい。

○企画立案のみならず実施(DO)への市民参加もあるから記載したい。

●例えば、路上喫煙禁止は罰金があって成り立つというように、ある程度の拘束力が無ければ書いたところで効果が無い。

●ほとんどの市民は条例を読まないと思うので、条例のPR活動が必要になる。そこではボランティアが重要な役割を担うと思うが、あえて条例に書く必要はないのでは。

●19の内容は是非実行してほしいが、条例に書く必要はないのでは。

●参加の実施(DO)のためなら施設ボランティア等はむしろ古く限界があるのでは。

●市民参加を促進していく為に、専門的な人が市の中にいて、職員と市民の両方を育成してくれるとよい。

●市民ボランティアは育成するものではなく、自然に湧いてくるものではないか。

●3. 市民参加の基本原則でも、子どもは特出ししないので、ボランティアも特出しの必要はない。

●自治基本条例に「市民参加条例は市民参加の手続き条例」とうたわれており、特出しの必要はない。

●特に必要ない。

●実施(DO)がここで突然出てくると違和感がある。ボランティアという言葉は一般的に偏ったイメージがあり、書くと誤解を招く恐れがあるため、あえてボランティアという言葉は使わない方が良い。

【事務局の意見】

・市民の「育成」とあるが、「育成」とはおこがましい。

赤(記載する)4: 青(記載しない)13

★市民会議の結論としては、「記載しない」

論点⑥ 「5. 市の責務」で5-4市民の育成を記載するかどうか？

赤(記載する)14: 青(記載しない)4

○すでにやっていることなので書かなくてよいと思うが、とりあえず入口を残すという意味で記載したい。また、「育成」という言葉には抵抗がある。

○何かやりたいけど何をやったらいいかわからない人のために必要。情報提供だけでなく、後押ししてほしい。

○押し付けになるとよくない。条例に書いてないと、市はやらない、市民は気づかない訳ではない。情報提供+αくらいの記載内容がよくて、5-3と5-4を一緒にしてもいいと思う。

●市民が自主的に参加するというスタンスがよいので、「市民の育成に市が努める」は書きすぎ。

●80 をこえる私でも年寄り扱いされたくない、がんばりたい。

●「育成」という言葉に抵抗がある。自主的に参加するのが市民参加。

赤(記載する)18: 青(記載しない)0

★市民会議の結論としては、「記載する」

【「育成」に変わることは？】

- ・市民参加は楽しさの中で活動していくもの。「手助け」「支援」
- ・「助成」「後押し」「背中を押す」
- ・「育成」という言葉に抵抗があるのは分かるが、法人に対し（市民参加の意義を理解してもらい、協力を求めるための）指導力を発揮するためには「助成」では弱い
- ・情報提供だけでは弱く、市民がキャッチできるようにしてほしい。「土壌をつくる」
- ・色々な課から色々な情報が出ているが、それらをそのまま市民が取捨選択するのは無理なので、市民がキャッチしやすいよう市がまとめてほしい。それを考えると「支援」がよい。
- ・「入口をつくる」「背中を後押し」
- ・「意識の向上」

【5. 市の責務について】

- ・文章が長く読みづらいため、5-1～5-4 を1つにする等して（以下）のように3行くらいにまとめてはどうか。（以下）市長その他の執行機関は市民参加の機会を提供し、市民の意見を尊重し、市の施策に反映するように努め、市民がまちづくりについて考えられるよう市政に関する情報を提供するとともに市民参加の後押しをすることに努めます。
- ・一文が長いと逆に読みにくいのでは。
- ・5-3 は市民、5-4 は職員と市民のことが書いてあるが、5-3 は市民、5-4 は職員と明確に分けたらどうか。
- ・5-4 で職員には市民の人もいるので、まとめて「市長その他の執行機関は、市民参加への高い意欲と行動力を持った市民の育成に努める」としたらよいのでは。

論点⑥ 「5. 市の責務」で5-4職員の育成を記載するかどうか？

赤（記載する）5： 青（記載しない）13

○市職員の立場からは記載してほしくないが、自分がリタイアした市民の立場なら記載してほしい。

○条例が施行されるに当たり、市職員には条例の研修（勉強会）がある。いずれにせよ、職員の仕事は変わらないので書いてもらっても構わない。

○市民の立場からすると、職員の育成もやってほしい。

○書かないことで批判を受けるくらいなら市職員にとっては書いてもらった方がよい。

○書くことによって、他市町と比較してうまくいっていると思われる安城の現状を後退させないよう、将来に向けて担保したい。

●職員も市民に含まれるので、特出しする必要はない。

●当然のことなので書く必要はない。



【事務局の意見】

- ・自治基本条例に書いてあるので、あえて書く必要はない。
- ・職員の育成をあえて特出しする必要はない。市民の育成もおこがましいので特出ししなくてよい。

赤(記載する)9: 青(記載しない)9

★市民会議の結論としては、合意得られず。議論が伯仲した経過を記載するにとどめる

その他、是非言っておきたいこと

- ・5-4 の「市民参加にかかわる市民の育成」の「かかわる」を削除してほしい。市民参加にかかわるだけでなく、そうでない人にも意識持ってもらえる文にしたい。→「市民参加への高い意欲と行動力を持った市民の育成」としたらどうか。

バズトーク「市民参加編のふりかえり&これからへの提言」

【加藤ファシリテーターより】

市民が読むから条例の効果が担保されるわけではないし、条例に書いてないから、必ずしも市が市民参加手続を実施しないわけでもありません。

でも、市政が市民参加条例にのっとっているか市民がチェックするとき、条例を知っていた方がよいですね？先程、池ちゃんから京都市民が自分のまちの条例を知らないというお話がありました。条例を作ったからそれで終わり、で果たしてよいのか？少し考えてみてください。自治基本条例でも、あんき会さんが出前講座などたくさんのPR活動を行っていますよね。

<バズトークからの提案>

- ・市長に提言する段階で、市民への啓発や議会との意見交換を行ってほしい。
- ・条文づくりは慣れない作業で大変だった。
- ・条例を推進していくときに、推進機関があっても形骸化してしまうし、難しい。
- ・安城市では、他市町と比べ市民参加ができている。この現状を後退しないように担保できたらよい。
- ・条例ができたらどうなるんだろう？入口だけは大きくつくって、入りやすくしたい。
- ・条例ができたら終わりではなくて、条例を市民に広げるためにビデオとか作ってがんばろう。
- ・次回から協働の部分に入っていくが、市民と市が具体的にどう協働していくかを考えたい。
- ・どうやって条例を伝えていくか。市民は条例そのものは読まないと思うので、敷居を低くし、広く伝えるためにはマンガ化等できたらよい。
- ・私は農家出身でこれまで市民参加などには縁がなかった。私にできることは何だろうかと考えたときに、農家の人たちに伝えていこうと思う。
- ・まずは、会長お疲れ様でした。安城らしい条例案ができた。推進計画がなくなって、年度計画がどのようにつくられていくのかに関心がある。

○: 赤を揚げた方の意見

●: 青を揚げた方の意見